

平成31年度予算を 市議会が厳しくチェック

～魅力あふれる未来へ、確かな歩みを進める予算 原案可決～

「魅力あふれる未来へ、確かな歩みを進める予算」として編成された平成31年度予算案を、予算決算常任委員会で慎重に審査しました。

3月4日の本会議で、「一般会計予算」、そして「水道事業」、「公共下水道事業」の2企業会計予算、さらに「国民健康保険事業」、「介護保険事業」、「後期高齢者医療事業」の3特別会計予算の各議案を予算決算常任委員会に付託しました。同委員会は、3月6日、7日、8日に31年度予算審査を行うための各分科会を開催し、所管ごとに集中的な審査を行った後、3月25日に座長報告と採決を行い、本会議で審議の結果、原案のとおり可決しました。
(以下、質疑、討論などの要旨を掲載)

総務分科会

ふるさと大使を活用した 広報宣伝について

問 教育、芸術、スポーツなどの分野で活躍され、本市にゆかりのある人を「ふるさと大使」に任命し、広報活動の充実を図るとのことだが、期待される効果はどのようなか。

答 著名なふるさと大使が、本市の主催事業などへ参加することで、ふるさと大使を通じて秦野の魅力を広くPRすることができ、本市のイメージアップや観光振興につながるものと考えている。

オリンピック・パラリンピック 推進事業について

問 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、「都心に近い山岳スポーツの聖地」を目指すとともに、「する」「みる」「ささえる」という視点でスポーツ振



県立山岳スポーツセンターにあるクライミングウォール

興に努めるとのことだが、事業の概要はどうか。

答 スポーツクライミング大会の開催やオリンピック・パラリンピック種目を体験・観戦する機会などを提供することにより機運の醸成を図るとともに、スポーツクライミング競技に照準を合わせた事前キャンプの誘致活動を行う。

期日前投票所の設置について

問 平成30年第4回定例会において、若年層に親しみのある場所への投票所開設を求める旨

の陳情が採択されているが、31年度において予定されている選挙を見据えた検討状況はどのようなか。

答 市内の大型商業施設と期日前投票所の設置に向けた協議を行っており、31年夏に予定されている選挙で設置できるよう調整を図っているところである。

要望 民間の施設にも配慮しつつ、慎重かつ十分な協議を進め、引き続き有権者が投票しやすい環境づくりに努めてほしい。

消防職員の育成について

問 平成32年度の新東名高速道路の供用開始に向けて、消防車両や資機材の整備などに取り組んでいくとのことだが、高速道路でのトンネル災害などに対応できる消防職員の育成はどのようなか。

答 消防職員の総合的な人材育成や組織全体の強化を図ることを目的として、31年度は専門機関で実施される教育研修に約80人を派遣し、特殊な災害などに対応できる消防職員を育成していく。

文教福祉分科会

福祉避難所整備事業について

問 障害福祉施設と協定を締結し、福祉避難所として約210人の受け入れ枠を確保しているが、その枠を超えた場合の対応はどのようなか。

答 福祉避難所に避難できる人数に限りがあることは課題として認識しているが、現時点で避難できない人の対応については、第一次避難所への避難や在宅での生活をお願いする形となる。

要望 福祉避難所への避難を本当に必要とする人であるのか、災害時の混乱しているさなかに判断するのは困難であることから、スムーズに誘導できる体制を早急に整えてほしい。

学校業務改善推進事業について

問 教職員の多忙化解消や働き方改革の推進を目的に学校業務改善方針を策定しているが、平

成31年度の取り組みはどのようなか。

答 効果的な教育活動が持続的に行える環境づくりのため、スクールサポートスタッフの配置や教職員の出勤システムの導入などに取り組んでいく。

食育推進事業について

問 子どもの頃に身につけた食習慣は生涯を通じての健康維持につながるため、乳幼児期における食育は重要と考えるが、子どもや保護者への普及啓発はどのようなか。

答 乳幼児健康診査などにおいて、成長段階に



食育キャラクター「ボンチウス」による食育啓発活動の様子

合わせた食育を行っている。また、子どもから保護者に伝わるように、幼稚園などで食育キャラクターを活用した出前講座を開催している。

移動図書館について

要望 移動図書館「たんざわ号」は燃料である天然ガスの供給場所が閉鎖されることなどを理由に、平成31年3月をもって運行を終了する。しかしながら、図書館法第3条には図書館奉仕の規定があり、自動車文庫の巡回に努めることが記載されていることから、再度の実施について検討してほしい。

学力向上推進事業について

問 民間企業と連携した寺子屋方式の学習支援を平成31年度から実施するとのことだが、この事業の目的はどのようなか。

答 小集団での学習支援体制を構築することで、児童の習熟度に応じた授業が展開でき、学力の向上だけでなく、家庭における学習習慣が形成されることを目的としている。